

【8月 葉月（はづき）】

^{たいしよ}大暑と言われるほど1年で一番暑い季節。海や山などの自然の中で過ごすことの多い月でもあります。暦の上では「^{りっしゅう}立秋」を迎え、これ以降の暑さのことを「^{すずかぜいたる}残暑」と言います。七十二候では「^{ひぐらしなく}涼風至」「寒蝉鳴」などの少し涼しげな言葉も使われるようになります。

<8月の行事>

7日ごろ 立秋

11日 ※1 山の日

13日～16日 ※2 お盆（盂蘭盆）

※1 2021年は東京オリンピック・パラリンピックの開催があったため、本来の11日ではなく8月8日となりました。

※2 地域によっては旧暦の8月（7月13日～15日）に行うところもあります。

お盆 (盂蘭盆)

お盆はご先祖様や亡くなった方の供養を目的とし、食べ物をお供えして冥福をお祈りする行事です。一般的に8月13日～16日の4日間とされています。地域によっては7月に行われるところもあるそうです。

名前の由来は諸説ありますが、仏教の盂蘭盆会うらぼんえまたは盂蘭盆うらぼんという行事があり、「盂蘭盆経うらぼんぎょう」という経きょうからきているとされています。



現在はお墓参りをしたり普段会えない親戚に会ったりと、子どもにとっては楽しい行事の一つとなっています。ニュースなどでよく見かける「お盆の帰省ラッシュ」も今では風物詩となっています。

一般的に迎え盆は13日、送り盆は16日とされています。迎え盆では夕方に玄関先、あるいは庭先でご先祖様が迷わないように火を焚いて迎えます。送り盆でも迎え盆と同じ場所で火を焚いてご先祖様が迷わず天に帰れるようにとされています。

盆踊り

盆踊りは日本の風物詩の一つです。由来は仏教の念仏踊りだとされています。現在はお祭りの会場などで櫓やぐらを囲み、浴衣を着て踊るのが一般的です。

盆踊りは、本来お盆に帰ってきたご先祖様や精霊しょうりょうがこの時期に天から戻ってきた時に家族と共に楽しいひと時過ごせるように」という意味があります。また、この世にいる人にとって生きる喜びを感じたり災を払ったりする意味もあります。地域の交流や再開の場でもあります。

15日に踊り、16日にご先祖様を送り出すといわれています。

近年では、駅前広場などの人が多く集まれる広場に櫓を組み、露店などを招いて、地域の親睦などの目的で行われています。盆の時期に帰郷する人も多くいることから、それぞれの場所の出身者が久しぶりに顔をあわせる機会でもあります。

お盆のお供え物

お盆にお供えするものは、一般的に五供ごくと言われ、「香こう」「花はな」「灯燭とうしやく」「浄水じょうすい」「飲食おんじき」がそれにあたります。

< 五供 >

「香」=線香

「花」=亡くなった方が好きな花等

「灯燭」=ロウソク

「浄水」=水道水等

「飲食」=亡くなった方が好んでいた食べ物等

「精霊馬しょうりょうま」もお盆を代表する飾りの一つですね。迎え盆には「早く着くように」ときゅうりの馬に乗り、送り盆にはナスの牛に乗り、「ゆっくり帰る」という説もあります。